
平成21年度予算第一特別委員会質問要旨

○ 局別審査 平成21年3月12日

質問者（質問順）

- 1 伊藤大貴委員（無所々）
- 2 中島文雄委員（共産党）
- 3 関勝則委員（自民党）
- 4 斉藤達也委員（自民党）
- 5 森裕之委員（民主党）
- 6 榊原泰子委員（公明党）
- 7 山崎誠委員（民ヨコ）
- 8 鈴木太郎委員（自民党）
- 9 片桐紀子委員（無所属）

こども青少年局

局 別 審 査

1 伊 藤 大 貴 委 員 (無 所 欠)

1 予算全般について

- (1) 横浜市が考える子育てのしやすい街とは何か。
- (2) 厳しい予算編成の中での局長の評価について伺いたい。

2 新生児訪問事業とこんにちは赤ちゃん訪問事業について

- (1) 新生児訪問事業とこんにちは赤ちゃん訪問事業とはそれぞれどういう事業なのか。
- (2) 新生児訪問事業とこんにちは赤ちゃん訪問事業で訪問の同意を得る方法について伺いたい。
- (3) 今後、新生児訪問事業を充実させる予定はあるのか。
(要望) 新生児訪問事業について、予算の裏付けをもって、しっかり実施することを要望します。

3 産後支援ヘルパー派遣事業について

- (1) 20年度の予算額と利用実績はどのようになっているのか。
- (2) 21年度の予算額を前年度の10分の1に削減した理由は何か。
- (3) 20年度分の事業者の募集期間はとうだったのか。
(要望) 事業実施にあたっては、再度検討することを要望します。

4 地域子育て支援拠点について

- (1) 1区1館に向けて整備しているが、地域により異なる増設のニーズがあると思うが、どうか。
- (2) 地域子育て支援拠点と親と子のつどいの広場の両事業推進にあたっての考え方について伺いたい。

(3) 地域子育て支援拠点と親と子のつどいの広場以外の、保育所や幼稚園での親子の居場所は広く知られていないと思うが、どうか。

(4) 地域子育て支援拠点は子育て支援の担い手の育成という役割も担っているが、現在の取組と課題について伺いたい。

5 子育て支援者事業について

(1) これまでの取組に対する評価について伺いたい。

(2) 地区センターや地域ケアプラザなども支援者事業の会場になっているが、これらの所管の区局に独自事業として実施してもらうよう働きかける必要性について伺いたい。

6 子育て応援特別手当について

(1) 国の要綱上の事務費と、本市が20年度補正予算で編成した給付事務費が異なる理由は何か。

(2) 給付に必要な事務費の国への働きかけについて伺いたい。

(要望) かがやけ横浜こども青少年プランに則り、温かみのある子育て支援を市として実施することを要望します。

1 保育所の整備及び運営事業について

- (1) 認可保育所入所申込者数について伺いたい。
- (2) 第一次募集入所決定時における内定数、保留数について伺いたい。
- (3) 保育所整備が前年度に比べ30%下回っている理由は何か。
- (4) 保育所整備量を減らしたことについての認識を伺いたい。
- (5) 待機児童解消モデル事業の事業内容と待機児童解消の効果（人数）について伺いたい。
- (6) 認可保育所について、市有地貸与の拡大など整備促進策の拡充を図るべきと考えるが、どうか。
- (7) 横浜保育室について、0～2歳という助成制限の廃止や各種助成を拡充し、整備促進を図るべきと考えるが、どうか。
- (8) 家庭保育事業について、認定数をさらに拡大し、基本助成費の拡充、緊急時の対応策など拡充を図るべきと考えるが、どうか。
- (9) 緊急対応が必要と思うが、副市長の認識を伺いたい。

2 市立保育園におけるアルバイト保育士の雇用問題について

- (1) 正規保育士・嘱託保育士・時間外託児福祉員の人数と週30時間以上働いているアルバイト保育士の人数内訳及び週37.5時間働いているアルバイト保育士の業務内容について伺いたい。
- (2) アルバイト保育士の賃金など雇用条件について伺いたい。
- (3) アルバイト保育士の1年以内の雇用形態は、一般的にどのようになっているのか。
- (4) アルバイトの雇用において、10か月雇用し間隔を2か月あけている根拠は何か。
- (5) 週30時間働いている経験あるアルバイト保育士業務は、嘱託職員化を図るべきと考えるが、どうか。

- (6) 週37.5時間働いているアルバイト保育士の業務内容について伺いたい。
- (7) 週37.5時間働いているアルバイト保育士業務の改善状況はどうか。
- (8) 週37.5時間働いているアルバイト保育士業務は全て正規職員とするか、せめて任期付職員にすべきと考えるが、どうか。

3 「市立保育所のあり方」検討について

- (1) 検討の目的、内容、スケジュールについて伺いたい。
- (2) 今回、移管までの準備期間を、1年延ばし、2年半としたのは、これまでの進め方には無理があったと考えるが、どうか。
- (3) 公的な役割を担っている市立保育所の民間移管はやめるべきと考えるが、どうか。
- (4) 市立保育所の拡充こそが求められると思うが、どうか。

4 放課後児童育成事業について

- (1) 放課後3事業の国事業（厚生労働省「放課後児童健全育成事業」、文部科学省「放課後子ども教室推進事業」）の中での位置づけについて伺いたい。
- (2) 「放課後子どもプラン」の重点事業は放課後児童クラブ（学童保育）になっていると思うが、どうか。
- (3) 放課後児童育成施策の中で放課後キッズクラブを中心的事業と位置づけているのは、時代とずれていると思うが、どうか。

3 関 勝 則 委員（自民党）

1 地域子育て支援拠点について

- (1) 地域子育て支援拠点の果たす役割は何か。
- (2) これまでの拠点の整備実績及び利用実績はどのようになっているのか。
- (3) 地域における人材育成、ネットワークづくりの具体的な取組事例について伺いたい。
- (4) 拠点運営にあたっての課題について伺いたい。

2 妊産婦歯科健診について

- (1) 妊産婦歯科健康診査事業の実績について伺いたい。
 - (2) 実績が伸びていない理由は何か。
 - (3) 統合して歯科相談とした理由について伺いたい。
 - (4) かかりつけ歯科医を持つための啓発をどのように進めるのか。
- (要望) 地域の歯科医師と連携し、事業の検証を行うなど柔軟な対応に努め、妊産婦の歯科保健の推進について一層取り組むことを要望します。また、国に財源確保の要求をしていくことも合わせて要望します。

3 青少年育成施策について

- (1) 青少年健全育成を推進する考え方や枠組みについて伺いたい。
- (2) 青少年期における体験活動の重要性をどのように認識しているのか。
- (3) 青少年施設における体験活動の取組について伺いたい。
- (4) 本市における青少年健全育成施策を今後どのように進めていくのか。

4 児童福祉施設について

- (1) 20年度までの児童養護施設の整備の進捗状況について伺いたい。
 - (2) 21年度に開所予定の新設児童養護施設の整備上の特徴は何か。
 - (3) 児童自立支援施設「横浜市向陽学園」の入所状況（入所期間を含む）について伺いたい。
 - (4) 向陽学園の地域との関わりの状況について伺いたい。
 - (5) 21年度において向陽学園の再整備にどのように取り組むのか。
- (要望) 施設を地域に開かれたものとし、施設関係者のみでなく地域社会にある潜在的な力を活用するなどを検討することを要望します。

4 齊藤達也 委員（自民党）

1 妊婦健康診査の補助拡大について

- (1) 既に母子健康手帳を受け取っている方への補助券の配付方法について伺いたい。
- (2) 妊婦健診の補助回数の拡大及び健診の重要性をどのようにPRしていくのか。

2 幼・保・小連携推進地区事業について

- (1) 事業の趣旨について伺いたい。
 - (2) 推進地区選定方法や補助金の使いみちも含めた今年度の成果と課題について伺いたい。
 - (3) 全市展開する意図について伺いたい。
 - (4) 保護者・地域とのかかわりについて伺いたい。
 - (5) 小中一貫教育との関係について伺いたい。
 - (6) こども青少年局と教育委員会との連携について伺いたい。
- (要望) これまで以上に連携・協働して、事業を進めるよう要望します。

3 摂食指導における地域療育センターと特別支援学校との連携について

- (1) 地域療育センターでは、具体的にどのような摂食指導に取り組んでいるのか。
 - (2) 地域療育センターから特別支援学校にどのように引継ぎが行われ、就学後もどのような連携がされているのか。
 - (3) 地域療育センターの医師と特別支援学校の校医との連携を進めていくことが重要だと考えるが、どうか。
- (要望) 連携の更なる強化に取り組むことを要望します。

4 放課後児童クラブについて

- (1) 放課後児童クラブに対する補助金交付の手続き・時期等について伺いたい。
- (2) 21年度補助金交付の手続きをどのように進めるのか。

5 放課後キッズクラブ事業について

- (1) 具体的内容について確認したい。
 - (2) キッズクラブを運営する法人の選定方法と、森の台小学校でキッズクラブを開始するにあたっての運営法人の応募状況について伺いたい。
 - (3) 質の高い指導員の確保と育成について、市としてのどのように取り組んでいるのか。
 - (4) 開設後に新たに指導員となった者への研修の有無と、この暴力をふるった指導員の事前研修受講状況はどうか。
 - (5) 問題の指導員が以前別のキッズクラブで暴力をふるった事について、市への報告の有無と時期について伺いたい。
 - (6) このような事件の再発防止策及び、運営期間中の法人の評価を、どのように考えているのか。
 - (7) 事業実施に複数の部署が関わる中で、それぞれの部署が連携する必要があると考えるが、どうか。
- (要望) 放課後キッズクラブが、子どもたちにとって安全で快適な放課後の居場所として、保護者や地域、学校など関係者にも十分に理解される運営が行われることを強く要望します。

6 E-若者サポートステーションについて

- (1) 具体的な事業内容と期待される効果について伺いたい。
- (2) E-若者サポートステーションが企業と連携する方法と、地域経済の活性化への可能性について伺いたい。
- (3) E-若者サポートステーションに関わる若者が、ITの技能を活かして地域コミュニティの活動に貢献する可能性について伺いたい。

1 事業所内保育施策について

- (1) 事業所内保育施設設置支援助成金の20年度応募状況はどうか。
- (2) 事業所内保育施設を設置・運営するにあたっての課題は何か。
- (3) 課題を踏まえ、どのように事業を展開していくのか。

2 留守家庭児童対策について

- (1) 留守家庭児童の状況をどのように把握しているのか。
 - (2) 20年度の調査結果について伺いたい。
 - (3) 「放課後の居場所づくり」の予算案の考え方について伺いたい。
 - (4) 放課後児童クラブが分割する際の補助制度の概要について伺いたい。
 - (5) 放課後児童クラブが廃止となった場合、留守家庭児童への対応はどのようにするのか。
 - (6) 今後、どのように放課後児童育成施策を推進していくのか。
- (要望) 子どもが安全で、快適に過ごすことができる放課後の居場所の確保に努めることを要望します。

3 よこはま型若者自立塾について

- (1) 趣旨とプログラム内容及び今年度の成果について伺いたい。
- (2) 塾生の家族からの自立をどのように考えているのか。
- (3) 学校・教育機関との連携についてどのように考えているのか。
- (4) 企業との連携についてどのように考えているのか。
- (5) 塾生のインターンシップの具体的な方法について伺いたい。
- (6) 塾生の就職に向けて、企業に対しどのように働きかけをしているのか。
- (7) よこはまユース・ニューディールの中での若者自立塾の位置づけ、発展・拡充の考え方について伺いたい。

(8) 自立塾の活動を地域社会の中での仕事興しへ発展させる可能性はどうか。

(9) 自立塾のプログラムを通じて、若者が働く事の意味を実感したエピソードについて伺いたい。

4 地域療育センター運営事業（児童デイサービス）について

(1) 地域療育センターにおける児童デイサービスはどのような特徴があるのか。

(2) 2か所の選定理由を伺いたい。

(3) 21年度の準備作業内容及び開始時期について伺いたい。

(要望) 全地域療育センターでの早期の実施を要望します。

5 地域療育センター学校支援事業について

(1) 現在の学校支援事業の実施状況と21年度の実施内容について伺いたい。

(2) 中学校への対象拡大の考えを伺いたい。

(3) 中学校期以降の支援については、どのように取り組んでいくのか。

(要望) こども青少年局、教育委員会、健康福祉局の連携による発達障害児支援の充実を図ることを要望します。

6 妊産婦歯科健康診査事業について

(1) 区福祉保健センターで地域の歯科医師の協力で実施している事業について伺いたい。

(2) 今後、他の事業はどのように展開するのか。

1 次世代育成支援について

- (1) 後期計画にあたり、前期計画の評価及び課題についてどのように認識しているのか。
- (2) 昨年実施したニーズ調査の概要及び調査結果について、特徴的なものは何か。
- (3) 前期計画の評価及び課題を踏まえ、どのような後期計画を策定する予定なのか。
- (4) ニーズ調査から把握できた父親の育児参加の状況はどのようなものか。
- (5) ワーク・ライフ・バランスに今後どのように取り組んでいくのか。
- (6) 事業開始から半年が過ぎた現在のハマハグへの協賛店・施設の状況及び今後の拡充方法について伺いたい。
- (7) ハマハグへの利用登録者状況及び登録を増やす方策についてどのように考えているのか。
- (8) ハマハグの登録証を直接対象者に配布することも検討すべきと思うが、どうか。

2 事故予防について

- (1) 局における事故予防の啓発にあたっての課題は何か。
- (2) 今後、保護者への啓発をどのように進めていくのか。
- (3) 子どもの発達段階に応じた事故予防について区や関係局と連携し、あらゆる機会を利用して、情報や学習機会の提供を行うべきと考えるが、どうか。

3 青少年の自立支援策（よこはま若者サポートステーションの機能拡充） について

- (1) よこはま若者サポートステーションの現在の状況と課題について伺いたい。
- (2) よこはまユース・ニューディールにおけるよこはま若者サポートステーションの機能拡充について伺いたい。
- (3) よこはま若者サポートステーションの機能拡充のために雇用するスタッフの資質と人数について伺いたい。
- (4) 機能拡充を進める中で横浜駅西口の他に、市域に複数のサポートステーションを特に南西部にもう1ヶ所開設すべきと考えるが、どうか。
- (5) よこはま若者サポートステーションと発達障害者支援センターとの連携について伺いたい。
- (6) よこはま若者サポートステーションと学校教育機関との連携について伺いたい。
- (7) 青少年の自立支援にかかわる人材の育成について伺いたい。

4 妊婦に対する支援について

- (1) 妊婦健康診査事業の国の財源について伺いたい。
- (2) 市外の医療機関で妊婦健診を受ける場合の、本市の補助券使用と手続きについて伺いたい。
- (3) 妊産婦歯科健診はどのように行われているのか。
- (4) 妊産婦歯科健診を廃止して歯科相談とした理由について伺いたい。
- (5) 廃止するにあたって地域の歯科医療機関や関係機関と連携をしてきたことについて伺いたい。
- (6) 関係団体と十分な協議をせずに妊産婦歯科検診を廃止したことは、妊婦の歯の健康を軽視したことになるのではないかと思うが、どうか。
- (7) 今後、妊産婦歯科健診の廃止について何らかの改善を検討する必要があると考えるが、どうか。

5 放課後児童クラブについて

- (1) 規模別のクラブ数と基本補助額はどうなっているのか。
- (2) 19年度に標準規模であったが、20年度小規模になったクラブはいくつあるのか。
- (3) 前年度標準規模であったクラブが、新年度に小規模になった場合の激変緩和措置は考えられないのか。

6 私立幼稚園就園奨励補助事業について

- (1) 21年度の就園奨励補助事業の予算が60億円と、20年度と比べて1億8千万円の減となっている理由は何か。
- (2) 第3子以降に対する国の私立幼稚園就園奨励費補助の改善内容について伺いたい。
- (3) 市単独補助減額の総額と第3子などについて補助単価の増額となる幼稚園児数と増額の総額について伺いたい。
- (4) 幼児教育の重要性や私立幼稚園の保育料が全国平均より高いことなどを考慮し、市が独自に上乗せして補助することが重要と考えるが、どうか。

1 妊産婦歯科健康診査事業について

- (1) 行政の歯科医師は、日頃どのような仕事をしているのか。
- (2) 行政の歯科医師と地域の歯科医師の役割について伺いたい。

2 保育所整備事業について

- (1) 保育所入所申込の今後の動向について、どのように考えているのか。
- (2) 横浜保育室整備費助成事業を、21年度新たに実施するに至った背景について伺いたい。
- (3) 横浜保育室整備費助成事業において、助成対象とする地域をどのように考えているのか。
- (4) 既存の横浜保育室を改修する場合も、助成対象とするのか。
- (5) 本市及び神奈川県における認定こども園の整備状況について伺いたい。
- (6) 認定こども園整備における課題は何か。
- (7) 認定こども園整備に今後どのように取り組んでいくのか。
- (要望) 保育ニーズに対応した、きめ細かな保育施策の展開に取り組むよう要望します。

3 児童虐待防止（NPO法人よこはまチャイルドラインとの連携）について

- (1) こども青少年局のよこはまチャイルドラインへの補助金交付の趣旨と助成内容について伺いたい。
- (2) よこはまチャイルドラインがより広く知られるために、連携や支援をすべきと考えるが、どうか。
- (3) よこはまチャイルドラインの情報を、こども青少年局として事業実施等の課題検討に活用すべきと考えるが、どうか。

4 青少年の地域活動拠点づくりについて

- (1) 整備の考え方とこれまでの実績について伺いたい。
- (2) 拠点に関わるスタッフ育成やプログラムについてどのように考えているのか。
- (3) 拠点と他の公共施設や学校教育機関との連携のあり方について伺いたい。
- (4) 道志村の若者自立塾のような試みを思春期の青少年の健全育成のためのプログラムとして広げていく可能性について伺いたい。

1 重症心身障害児者支援施策について

- (1) 重症心身障害児者医療連携ネットワークの取組状況はどうか。
 - (2) 重症心身障害児者施設増床の検討状況はどうか。
 - (3) 児童相談所の法的位置づけと担っている機能について伺いたい。
 - (4) 各児童相談所育成係の昭和49年、59年、平成19年の職員配置数と職員一人当たりの在宅重症心身障害児者数について伺いたい。
 - (5) 育成係の役割と現状認識について伺いたい。
 - (6) 重症心身障害児者とその家族のそれぞれのライフステージ毎の主たる相談場所はどこか。
 - (7) 一人ひとりのケースを継続的に把握する相談支援システムを障害者プラン（第2期）で明確に位置づけるべきと考えるが、どうか。
- (要望) 重症心身障害児者施設については既存施設の増床後も新たな施設が必要であり、市の中心部にあっても良いと思うので、長期的な視点で検討することを要望します。

9 片 桐 紀 子 委員（無所属）

1 横浜子育てサポートシステム事業について

- (1) 事務局機能強化モデル事業の目的及び区社協から子育て支援NPOに事務局を移管する意義について伺いたい。
- (2) 移管したことによる効果など、モデル事業の検証結果はどうか。
- (3) モデル事業の結果を踏まえ、今後の展開はどうするのか。
- (4) 移管を受けた子育て支援NPOは、どのようにPRを行っているのか。
- (5) 区支部事務局機能を移管するにあたっての課題は何か。

2 女性のキャリア支援のための本市の子育て支援施策の充実について

- (1) 本市の子育て支援の充実が必要と考えるが、どうか。